

令和3年10月1日

阪神間日本遺産推進協議会が YouTube チャンネルを開設

『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』

日本遺産のストーリーを動画で紹介

阪神間日本遺産推進協議会では、歴史・文化について知名度の向上を図るとともに、周辺地域へ来訪者の更なる増加を目指すため、「日本酒の日」である10月1日に、YouTube チャンネルを開設しました。動画では、日本酒好きで知られるラジオ DJ・飯室大吾氏が伊丹と灘五郷を巡り、清酒造りのストーリーを紹介します。

YouTube リンク先：<https://youtu.be/caILAQKWY-o>

◎動画が紹介する4つのストーリー（再生時間：5分48秒）

【ストーリー①：「澄み酒」の出現と「伊丹諸白」】

江戸時代に伊丹において、「濁り酒」ではない透明な「澄み酒」が生み出され、「伊丹諸白」と呼ばれ、江戸で人気を博しました。

【ストーリー②：六甲山の恵みと丹波杜氏が生んだ「灘の生一本」】

伊丹に続き台頭した西宮・灘の地域では、六甲山の恵みである酒造りに適した水と米、丹波杜氏により「灘の生一本」と呼ばれる淡麗な清酒を造り、現代の清酒造りにつながる酒造りのスタンダードを築きました。

【ストーリー③：「下り酒」と「樽廻船」】

江戸時代末期には、1年で100万樽、「下り酒」を酒専用の樽廻船により江戸へと輸送し江戸の酒の8割を占めました。また、樽廻船で西宮・灘～江戸への新酒の到着を競う「新酒番船」という船のレースが行われ、江戸で大人気の行事となりました。

【ストーリー④：酒造家が育んだ文化】

酒造家たちは、江戸積み酒造で得た富を、芸術、文化、教育や建築に注ぎました。伊丹と灘五郷では、「白鶴美術館」「ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）」など、酒造家のコレクションを展示する美術館や酒蔵を利用した博物館などに訪れることができます。



YouTube で動画を再生